

アソカ講話032

テーマ「命について」

明日の命を保証されたものはいない。親鸞聖人が語った言葉である。私達は等しく命を保証される者はいない。逆を言えば、人の命がいつまであるかは神様、仏様のみ知りえることである。

もうあぶないと言われ1年生きる人もいれば、元気でいても今日死ぬ方もいる。すべてはその人の持つ寿命が決めるもの。私達は、命に対して謙虚になり、その厳粛な事実を、感謝を持って受け止めることが命に向き合う大切な姿勢だと思う。

自分の命も他者の命も、その命が最後を迎えた時、何人もどうすることもできない。ただその命に感謝し冥福を祈るのみである。もし、神様がいるとしたら、一番いい形でその人の最後を迎えさせてやりたいと神様は思っていると思う。私はそう信じている。

大好きな職員に見守られ、排泄できてすっきりとし、苦しむことなくあの世に旅立てたことは、人の最後としてはある意味いい最後だったと思う。自分を責めない、周囲を責めない、後戻りしない、必ず、多くのことを学びとして残してくれていることに気づくこと。そのことが、命が残してくれた送りものであり、宝物。私達はその宝物の中に囲まれて生きていることに感謝したい。